



コーパスに基づく英語名詞転換動詞 filter のフレーム意味論的分析

中畠, 浩貴

(Citation)

神戸言語学論叢, 11:58-74

(Issue Date)

2018-03-15

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD01)

<https://doi.org/10.24546/81010271>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010271>



コーパスに基づく英語名詞転換動詞 *filter* のフレーム意味論的分析

中 篤 浩 貴

神戸大学大学院

1. はじめに

現代英語における生産的な語形成の1つとして品詞転換がある。これはある品詞の語を形態的な変化を伴わずに別の品詞で用いるというもので、様々な品詞で転換が用いられている。中でも名詞から動詞を作るパターンが特に生産的であるとされ、当該現象の背後にあるメカニズムを解明すべく、多くの研究が積み重ねられている (Sweet 1892, Jespersen 1942, Zandvoort 1953, Marchand 1969, Pennanen 1971, Clark and Clark 1979, Aronoff 1980, Hale and Keyser 1992, Štekauer, 1996, Nagano 2008, Rimell 2012など)。

英語の名詞転換動詞の注目すべき特徴の一つに、その意味の多様さがあげられる。例えば、代表的な研究の一つである Clark and Clark (1979) では、3,000以上の名詞転換動詞の例をもとに、探索的ではあるが次の8つの意味パターンの分類 (その他として分類されたものを除く) がなされている。

- (1) a. Locatum verbs : 親名詞の指示対象をどこかに移動させる
e.g., *blanket* <ブランケットをかける>、*paper* <紙を貼る>
- b. Location verbs : 親名詞の指示対象のところに移動する
e.g., *ground* <着陸させる>、*jail* <収監する>
- c. Duration verbs : 親名詞の指示対象の期間を過ごす
e.g., *summer* <夏の時間を過ごす>、*holiday* <休暇を過ごす>
- d. Agent verbs : 親名詞の指示対象の行為者的役割を務める
e.g., *butcher* <肉を加工する>、*jockey* <騎乗する>
- e. Experiencer verbs : 親名詞の指示対象の経験者的役割を務める
e.g., *witness* <目撃する>、*boycott* <ボイコットする>
- f. Goal and Source verbs : 親名詞の指示対象から何かを作る・その状態にする
e.g., *powder* <粉末状にする>、*loop* <輪の状態にする>、*piece* <ピースをつなぎ合わせる>
- g. Instrument verbs : 親名詞の指示対象を道具として用いる
e.g., *hammer* <ハンマーでたたく>、*nail* <釘で固定する>

名詞転換動詞は形態的な変化を伴わない以上、派生以外の何らかの意味的なメカニズムによりこのような多様な意味が生じていると考えられ、その意味的なメカニズムの解明に向けて、多くの研究が積み重ねられてきている。特に近年では、名詞転換動詞の意味について、世界の事物などに関する一般的な知識の観点から研究が進められている (Clark and Clark 1979, Dirven 1988, 1999, Buck 1993, Farrell 2001, Baeskow 2006, Štekauer et al. 2011, 伊藤・杉岡 2002)。

本稿では (2) にあげるような、英語の名詞転換動詞の1つである *filter* を取り上げる。

- (2) a. The system filters water from the well. <フィルターでろ過する>
b. The window filtered out sunlight. <取り除く>
c. Sunlight filtered through the window. <通り抜ける>

(COCA)

今回取り上げる *filter* は、道具を指示対象として持つ名詞から転換された動詞 (道具動詞) である。このような道具動詞の意味の規則性に関しては、詳しくは2節でみるが、おおよそその指示対象の道具の典型的な使用方法についての知識が転換動詞の意味と関連していることが、多くの研究者によって指摘されてきた。

この名詞転換動詞についての意味パターンの特徴は、動詞 *filter* についても当てはまるのだろうか。また *filter* は具体的にどのような意味で用いられ、そしてそれは理論的にどのように説明することができるのであろうか。本稿ではアメリカ英語コーパスの *Corpus of Contemporary American English* (Davies 2008-, COCA) から得た用例の詳細な分析を通じて、*filter* においてこの意味パターンの一般化は不十分であり、*filter* の意味はフレーム意味論の観点からより適切に説明されることを論じる。

2. 先行研究

名詞転換動詞に道具名詞に由来する転換動詞がその道具の典型的な使用方法を表すという指摘は多くの研究でなされている。例えば、Kiparsky (1997) では以下のような原理により名詞転換動詞の意味が理解されると主張している。

- (3) If an action is named after a thing, it involves a canonical use of the thing.
(Kiparsky 1997: 380)

他の研究においても、これと類似の理論的説明が述べられている。古典的な研究である Clark and Clark (1979: 791) では、道具について共有されている知識のうち、重要な特徴の1つとして何らかの行為を行ったり目的を達成したりするために用いるという使用法があ

り、この知識が道具名詞由来の転換動詞の意味に反映されているとしている。同様の考えは Pustejovsky (1995) の生成語彙意味論に基づく名詞転換動詞の研究 (Jun 2009, Baeskow 2006, Fabrizio 2013, 由本・影山 2012など) にも見られる。具体的には、名詞転換動詞は生成語彙意味論で想定されている名詞の特質構造 (Qualia structure) に記載されている4種類の知識のうちどれか (または複数) がその意味に利用されるとしている。そして、道具動詞などでは4種類のうち目的役割 (TELIC role) と呼ばれる指示対象の典型的な使用方法についての知識が、その意味理解に利用されるとの分析を行っている。

この意味的特徴づけは、確かにある種の道具動詞における意味をうまくとらえていると思われる。次の (4) の例を見られたい。

- (4) a. As it began to glow, he pounded and **hammered** it into shape.
- b. ...while the bartenders cashed out and the busboys **mopped** the floor.
- c. It is a side table made by **gluing** together hundreds of wood scraps,...

(COCA)

上記の3つの例において、(4a) の *hammer* は<ハンマーでたたく>、(4b) の *mop* は<モップでふく>、そして (4c) の *glue* は<ノリでくっつける>の意味をそれぞれ表している。これらの意味はそれぞれの道具の意図された使用法と一致しており、先の特徴づけの通りの意味が表されているといえる。Clark and Clark (1979) においては、*filter* は道具動詞の1種として分類されており、この意味的特徴づけが当てはまると想定される。

しかしこの特徴づけは *filter* の意味を捉えるためには不十分であるように思われる。それはこの「規範的・典型的使用法」という概念があいまいであり、これがどのように動詞の意味に反映されるかについて考慮されていないことによる。*filter* の場合、フィルターが用いられるイベントと、単語としての *filter* の意味とのずれが顕著である。*filter* は様々な意味において用いられ、少なくとも (2a) の<フィルターを使う>、(2b) の<除去する>、(2c) の<通り抜ける>の3つの意味があるが、このうちどれか1つをフィルターの典型的使用法と認定することは困難である。また、仮にこれらを総合するようなイベントをフィルターの典型的使用法として想定したとしても、(2) の3つの意味がどのように理解されるのかということについて説明は、少なくとも先の特徴づけでは考慮されていない。

今指摘した道具の使用法と道具動詞の意味のずれに関しては、使用法のイベントの複雑性と関係していると考えられる。*filter* はろ過に関するイベントに参加すると考えられるが、このイベントは複数の参加者から成り立っており、どの参加者間の関係に注目するかによって、理解されるイベントの展開が異なってくる。例えば、*filter* の操作者と除去対象の観点から見ると、イベントは対象を除去することと理解され、*filter* を通過する対象の観点からは、何かを通るイベントとして理解されるのである。これに対し、道具の規範的な使用法の意味的特徴づけでうまく捉えられると考えられる道具動詞の場合 ((4) など) は、そ

これらの使用法に対応するイベントが比較的単純である。(4a) の *hammer* の場合、描写されるイベントの展開は、＜行為者がハンマーで何かをたたき、特定の形にする＞に定まり、複数の展開の解釈が競合することは考えにくい。つまり、先の道具動詞の特徴づけがうまく機能するのは使用法に関するイベントが比較的単純で一意に定まりやすい場合であり、それに従って語の意味も少数の読みで定まる場合においてである。しかし、フィルターのような、複数の展開を内包するようなイベントを使用法に持つものに関しては、イベントのどの分岐に注目するかによって、対応する言語表現の表すものとして理解される意味が異なってくる。それゆえ、*filter* の意味を説明するためには、その指示対象の使用法について言及するだけではなく、その使用法に相当するイベントがどのように言語化され、言語表現の意味として理解されるかという観点も必要になるのである。

以上の点を踏まえると、「道具動詞の意味は元の名詞の指示対象の道具の使用法」という一般化は、道具動詞の大まかな意味のパターンをとらえてはいるものの、*filter* の例では不十分であるといえる。*filter* の意味を説明するためには、その典型的な使用法であるイベントがどのように理解され、言語的に表現されるかという観点からの説明が必要である。具体的には、*filter* が参加するイベントの特定とともに、そのイベントをどの観点からとらえるかといった観点を含む説明が必要であると考えられる。

3. 分析

3.1. 理論的枠組み

本稿はフレーム意味論の枠組みから *filter* の分析を行う。フレーム意味論は Fillmore (1977, 1982, 1985) などで提案されてきた理論である。この理論の特徴は語の意味をその背景的な知識の観点からとらえるというものである。そのような背景的な知識はフレームと呼ばれ、より正確には次の (5) のように定義されている。

- (5) [A frame] can be defined as any of the many organized packages of knowledge, beliefs, and patterns of practice that shape and allow humans to make sense of their experiences.

(Fillmore and Baker 2010: 792)

フレーム意味論では、語はあるフレームを喚起し (evoke)、そのフレームの1側面や要素をプロフィールすると規定されている。

以上のフレーム意味論を、代表的な例である売買に関連する語と商取引のフレームで例示する (Fillmore 1977)。売買に関連する *buy, sell, cost, pay* といった語はそれぞれが単独で意味を成すわけではなく、背後に商取引のフレームを共通して持つとされる。このフレームは最も基本的な場合、売り手・買い手・代金・商品といった参加者から構成され、売り手と買い手が商取引についての合意にもとづき、売り手と買い手が商品と代金を交換し、

その結果売り手が代金を所有し、買い手が商品を所有するという一連の状況を表す。売買に関連する *buy, sell, cost, pay* といった語はこのフレームの異なる側面を描写すると考えられ、*buy* は買い手と商品の関係性を、*sell* は売り手と商品の関係性をプロファイルするというように説明される。

3.2. データの収集

本稿では現代アメリカ英語コーパスCOCAに基づき、*filter* の用法を詳細に分析する。コーパスはWeb版 (1990-2012, 4億5000万語) を用い、*filter* の動詞の用例をレマ検索で収集した。得られた用例はすべて目視で確認し、誤タグなどで誤って収集された無関係な例を手作業で取り除いた。最終的には3,482例の用例が収集され、これらについて意味分析を行った。以降の *filter* の例は特に断りのない限り COCA より得られたものである。

3.3. *filter*の意味分析

3.3節では具体的に本稿の分析を提示する。フレーム意味論に基づく語の詳細な分析の例として Fillmore and Atkins (1992) による RISK の優れた分析がある。本稿は彼らの分析を参考にし、一部修正を加えながらそれを *filter* の場合に応用した形で分析を進める。まず、フィルターの使用場面を考えてみると、大まかには何かに対しフィルターが用いられ、その結果、あるものはそれを通過し、あるものはフィルターにより除去されるというものであろう。より精密にみると、この場面は「フィルターを用いた分離」と「フィルターを通すことによる状態変化」の2つのイベントに分析できる。本稿ではこれらのイベントを次の *filter_separation* フレームと *filter_change-of-state* フレームの2つのフレームとしてとらえる。これらについて以下で順に詳しく見ていく。

3.3.1 *filter_separation*フレーム

1つ目の*filter_separation*フレームは (6) の通りに定義することができる

- (6) *Filter_separation* フレーム：ある操作者により、ろ過対象となる複数の物質からなる混合物（通過前対象）にフィルター装置を用いてろ過の機能が実行され、その結果、構成要素に分離し、そのうちあるものがフィルターを通過せずに除去され（除去対象）、他のものはフィルターを通過する（通過対象）

このフレームにおけるフレーム要素は表1のとおりである。このフレームは多くのフレーム要素から構成され、そのどれをプロファイルするかで理解されるイベントの展開が異なってくる。このフレームに属する<濾過の機能を実行する>や<除去>、<通過>といった *filter* の意味はこの異なるプロファイルの仕方を反映したものとして分析できる。

名前	略称	定義
操作者 (Agent)	A	フィルター装置を用いる操作者
フィルター装置 (Filtering Device)	F	フィルター装置
通過前対象 (Pre-passing Object)	PPO	ろ過の対象であり、通過対象と除去対象の混合物
通過対象 (Passed Object)	PO	フィルターを通過する対象
除去対象 (Removed Object)	RmO	フィルター装置により通過せず除去される対象
獲得対象 (Obtained Object)	OO	ろ過の実行により獲得が意図されている対象
基準 (Norm)	N	分離と除去の基準

表1 Filter_separationフレームのフレーム要素

このフレームに基づいてその意味が理解される *filter* の用法の1つ目として、<ろ過の機能を実行する><探索する>を取り上げる。まず (7) の例はフィルター装置によるろ過機能の実行の事実が表されている。

- (7) a. ^F{My kidneys} weren't filtering.
b. In addition, all equipment operators are provided with ^F{dust masks} that filter ^N{down to 1 micron}.

この例では、動詞 *filter* が [F filter] の自動詞パターンで用いられ、主語でフィルター装置 (F) が具現化される。基準 (N) が表される場合、(7b) のように前置詞句の形で表現される。

以下では、操作者やフィルター装置が特定のろ過対象に対してろ過を行うものを取り上げる。この場合、*filter* は他動詞の形で用いられる。(8) の例は主語に操作者が生起している例で、構文としては [A filter PPO] の表現パターンが用いられている。

- (8) ^A{One of the kids} filters ^{PPO}{ocean water}; 7 gallons were carefully boiled down to yield 3 cups crystals.

また、フィルター装置が濾過対象に対して機能するという意味が表される場合、(9) のように [F filter PPO] の表現パターンで表される。

- (9) Solar electricity, wind turbines and water collection systems. ^F{Other systems in the houses} filter ^{PPO}{water from the sinks and bathtubs} and reuse it in the toilets.

(8) と (9) のいずれの場合でも、ろ過の事実が *filter* によってプロファイルされ、関連するフレーム要素とともに言語化されていると考えられる。

獲得対象 (OO) が具現化される場合として、次の (10) の例がある。この例は獲得対象 (OO) が *for* 句によって表され、全体としてはく獲得対象を求めてフィルター機能を実行する>ということを表している。

- (10) a. It's a blank subject line, and ^{SO}{blank subject lines} are much harder to filter for.
 b. One of the problems with a denial of service attack is that ^A{we} can filter for ^{SO}{certain characteristics} that are signatures of this particular attack, but if it mutates...

なお、獲得対象については、ろ過により取り除かれることによりそれが獲得されるのか、または通過させることによって獲得されるのか、このどちらであると理解されるかは文脈次第である。

次に、Filter_separation フレームの異なる側面をプロファイルすると分析できるものの2つ目として、<通過>の意味を表す場合をあげる。通過対象が注目された場合、*filter* は (11a) のように [A filter PO F] のパターンであらわされるか、(11b, c) のように通過対象を主語にとる [PO filter] のパターンで用いられ、通過対象が通過したことを表す。

- (11) a. Just like every artist can -- can use a technique that ^A{you} then filter ^{PPO}{it} ^F{through yourself} as an artist and make it your own.
 b. ^{PO}{The first milky light of the coming dawn} was just starting to filter ^F{through the tall trees}.
 c. ^{PO}{Neighbors} filtered ^{PATH}{in and out}, bearing cards and cookies.

この<通過>を表すパターンにおいては、何らかの経路句が共起する。この経路句を伴って具現化された参加者は通過対象と理解される。この経路句は、(11a, b) のようにフィルター内部の通過経路を表す場合と、(11c) のようにフィルターを通過して異なる場所に到達することを表す場合とがある。

以下の (12) にあげる例では<通過_影響の残留>の意味が表され、<通過>を表す用法の拡張例としてとらえることができる。具体的には、(12a) では、イギリス上空が灰の雲で覆われているという意味が理解され、(12b) はフィットネスセンターまでその研究(成果の情報)がいきわたるということが理解される。

- (12) a. ... because they are saying that ^{PO}{this ash cloud} is going to filter ^{PATH}{down} across the U.K., ...
b. ^{PO}{Research into the ineffectiveness of static stretching before a workout} has filtered down ^{PATH}{to fitness centers}.

この拡張例の特徴は、通過した経路に通過物の影響が残留するという意味が理解される点である。また *down* がしばしば用いられる。また、通過対象の影響を被る場所が前置詞句で表され、具体的には、(12) の例文において *PATH* と表記されているものである。

次の (13) の例もこの種の拡張例ととらえることができる。この例では学校が学生を社会へ送り込んだということを表している。

- (13) Over the years, ^A{the school} ... and filtered ^{PO}{many students} ^{PATH}{into society} to lead useful and productive lives.

Filter_separation フレームの異なる側面を表す3つ目のものとして、＜除去＞の意味を表す用法が観察される。この用法は (14) に例示されるとおりである。

- (14) a. ...and ^A{people} look into the blogs to sort of filter out ^{RmO}{what they don't trust in the media}...
b. Always wear ^F{sunglasses} that filter out ^{RmO}{all UV rays -- both UVA and UVB}.

filter のこの用法は [A filter out RmO] もしくは [F filter out RmO] の構文パターンで現れ、除去は *out* によって明示される。またこの用法は他動詞表現でのみ見られた。

3.3.2 *filter_change-of-state* フレーム

filter が参加する2つ目のイベントは状態変化に関連するものである。このイベントでは、物質がフィルターを通過することにより別の状態のものへと変化する。このイベントに関するフレームは *filter_change-of-state* フレームとしてとらえることができ、(15) の通りに定義できる。またこのフレームのフレーム要素は表2のとおりの特徴づけられる。

- (15) *Filter_change-of-state* : 物質 (変化前対象) がフィルターを通過することにより別の状態のもの (結果対象) へと変化する

名前	略称	定義
操作者 (Agent)	A	変化前対象にフィルター装置を適用する行為者
フィルター装置 (Filtering Device)	F	フィルターの機能を果たす装置やそれと同等のもの
通過前対象 (Pre-passing Object)	PPO	フィルターを通過する、変化前の対象
結果対象 (Result Object)	RsO	フィルター装置を通過し状態変化後の対象

表2 Filter_change-of-state フレームのフレーム要素

RsO について注記すると、フィルター装置を通過するものという点では表1の通過対象 (PO) と共通であり、フィルター装置を通過せずに除去される RmO とは異なるものである。しかし、RmOは単にフィルター装置を通過するだけではなく、通過により何らかの状態変化を被るという点で PO とは異なるものである。以下にあげる<状態変化>の意味を表す例は、このフレームによって捉えることが可能である。この状態変化のフレームに属する用法においては、*filter* は他動詞と自動詞のどちらでも観察された。具体的には (16a, b) のような [F filter PPO result phrase] の他動詞結果表現のパターンをとるか、(16c) にみられるような [PPO filter result phrase (through F)] の自動詞結果表現のパターンで用いられる。結果句は *into* 句もしくは *to* 句、あるいは形容詞句で表される。

- (16) a. ^F{Cosmic dust} filters ^{PPO}{the light} *into* ^{PO}{the shifting spectrum of colors}.
- b. Portland's ash sky was barely visible behind ^F{a canopy of aspens, hemlock, cedars, and maples} that filtered ^{PPO}{the light} *to* ^{PO}{a shimmering pale green}.
- c. ... big, and old, and plump; and Beth loves the way ^{PPO}{the sunlight} filters white and pure through ^F{the veiled windows}.

filter の意味の1つに<投射>という意味が認められるが、この例もこの filter_change-of-state フレームの拡張例と考えられる。この意味の例としては (17) が観察され、結果対象が目的語として現れ、その結果対象の移動経路を表す表現が後続している。これは [F filter RsO PATH] の構文パターンで現れる。

- (17) At night, ^F{stained-glass windows} light up like bright stars, filtering ^{RsO}{magical beams} ^{PATH}{to the streets}.

この表現の注目すべきところは通常は前置詞句で表される状態変化後の対象 (RsO) が目的語に現れているところであり、通常のものとは異なる表現パターンを取っている。またこの用法ではフィルターの機能を果たす対象のみ主語に現れることができるようである。またこの場合も経路表現と共起することが観察された¹。

3.4. *filter* の2つのフレームの関係性

先の節では、複数のフレームを想定し、それらから *filter* の意味分析を行った。この時、先行研究であげられた、道具動詞に関する特徴づけ、すなわち、道具の典型的使用法が道具動詞の意味として表される、ということを振り返ってみよう。この特徴づけを援用するとすれば、本稿のように個別のフレームを想定せずに、それらを含めたより一般的なイベントの知識を想定するということも考えられる。これに対し本稿では、*filter_separation* フレームと *filter_change-of-state* フレームを、以下の2つの理由から区別すべきであるとの立場をとる。まず意味的な理由として、2つの側面は厳密には異なるイベントである。具体的に言うと、*filter_separation* フレームはある種の移動イベントであり、フィルターが適用される対象は何らかの混合物からなるが、その一部のみがフィルターを通過し、残りはフィルターを通過しない。しかし *filter_change-of-state* フレームではフィルターが適用される対象は混合物であるという前提はなく、また基本的にその対象はすべてフィルターを通過する。また対象が被る状態変化は単なる分離以上の変化であることもあげられる。

上記の *filter_separation* フレームと *filter_change-of-state* フレームが異なるフレームであるとする証拠は、用いられる言語表現にも認められる。*filter_separation* フレームの場合、除去対象は *out*、また通過対象は *through* で表されるのに対し、*filter_change-of-state* フレームにおいてフィルターを通過することになる結果対象は *to* や *into* で表される。この *to* や *into* といった表現は英語で状態変化を表す表現で用いられるものでもある。この一見同じような参加者を表すフレーム要素が異なる表現とともに表されるというのは、その参加者がそれぞれのフレームにおいて、異なる役割を果たす異なるフレーム要素であると理解されていることに動機づけられており、これは2つのフレームの表すイベントが異なるものであるということを示している。以上の理由から上記2つのフレームは別のフレームとして設定されるべきである。

以上、コーパスから得られた *filter* の用法が2つのフレームの観点から説明できることを示した。以下ではこれらのフレームとそれらによって説明される諸用法の全体像を示す。各フレームは四角、また各用法の意味は<>で示してある。フレーム間の矢印はこの継承関係を示している。また、フレーム内における点線の矢印はある用法から他の用法への拡張関係を表している。また *filter_separation* フレームにおける二重線はこれらで結ばれた用法が同一フレームの異なるプロファイルの関係にあることを示している。

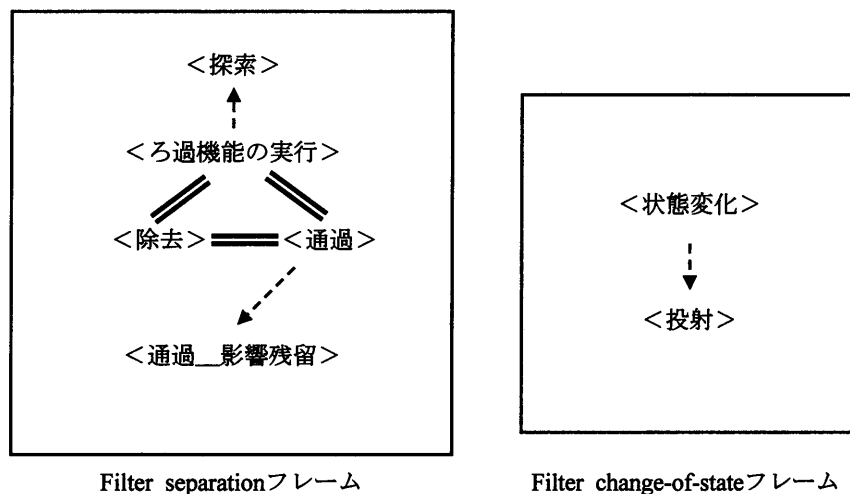


図1 *filter*のフレームとその関係、および各用法の位置づけ

3.5. まとめ

3節の最後にまとめとして、本稿の分析によって得られた結果をもとに、道具フィルターの典型的な使用法に基づく分析を比較検討し、また本稿の分析の特徴とその利点を述べる。具体的には、次の2点にまとめることができる。

第一に、本稿の分析は先行研究での一般化、すなわち指示対象の典型的使用法に基づく一般化と比較し、より多くの用法を説明することができる。ある用法については、先行研究での分析と本稿の分析は共通するところがある。具体的には、先行研究における典型的な使用法は、本稿の *filter_separation* フレームに対応する。ただし、本稿の分析で示した通り、*filter* の個々の用法を精緻にとらえるためには、このフレームをどのように解釈したかという観点から分析する必要がある。また、本稿の *filter_change-of-state* フレームによってとらえられた用法は、フィルターの典型的な使用法分析では取りこぼされる。本稿で設定した2つのフレームは、イベントそのものは違うものの、フィルターを対象が通過するという共通点がある。その意味で、フィルターの典型的な使用法に相当する *filter_separation* フレームで説明が可能な意味だけではなく、*filter_change-of-state* フレームによってとらえられる2つの意味が *filter* に存在するのは自然であり、動機づけがあるといえる。このような用法も意味として記述に含められるべきである。

第二に、動詞 *filter* の用法を適切に説明するためには、*filter* が参加する具体的なイベントの知識を踏まえる必要がある。つまり、*filter* の諸用法をとらえるためには、単にフィルターがどのような典型的な使用法を有するかということだけではなく、フィルターがどのようなイベントに参加し、そのイベントの知識に基づいて *filter* という語がどのように理解されるか、ということも踏まえる必要があるということである。本稿の分析においては2つの

フレームを提案したが、1つ目の *filter_separation* フレームではプロファイルの概念を用いて、同一イベント内での異なる焦点化として *filter* の複数の意味が説明できることを示した。また、2つ目の *filter_change-of-state* フレームでは、*filter* という語の意味のうち、いくつかは種の状態変化のイベントの知識に基づいて理解されることがあるということを示し、そのような意味をとらえるためには状態変化のイベントに関するフレームを個別に想定する必要があることを示した。それに基づいて意味が理解されるということを、この点でフレーム意味論に基づく分析では *filter* をより適切に分析するものであるといえる。

以上、3節では本稿の動詞 *filter* の詳細な分析を提示し、フレーム意味論を援用することで、当該動詞が適切に説明できることを示した。次節では本稿のフレーム意味論的分析により *filter* のほかの文法的な振る舞いについても説明が可能になることを論じる。

4. *filter* の意味と表現パターン

3節ではフレーム意味論に基づき *filter* の意味について詳細な分析を行った。4節では意味と表現パターンの関係について考察する。本節では表現上のパターンに関してもフレーム意味論の考え方を援用することで説明が与えられることを示す。具体的には次の2点に関し考察する。

- (i) 経路表現が脱落する場合
- (ii) 自動詞用法の有無

以降これらを順に考察し、これらの点は *filter* が参加するフレームの観点から説明が可能であると論じる。

4.1. 経路表現の義務性

まず (i) 経路表現が脱落する場合について考察する。2つ目の *filter_separation* フレームに属する用法<除去する><通過する>が用いられるときには、除去対象もしくは通過対象のフレーム要素を表現する場合、基本的に何らかの経路表現が必要である。次の例を見られたい²。

- (18) a. Sunlight filtered through the window.
b. *Sunlight filtered the window.
- (19) a. The system filtered out junk mail.
b. *The system filtered junk mail.
- (20) The system filtered all email.

ここで注目すべきは (18) と (19) である。(a) の例は適切な経路表現を伴うもので、問題なく容認される。一方 (b) の例ではそのような経路表現が落ちており、＜除去＞＜通過＞の意味では筆者のインフォーマントによると容認できない文とされる。参考に、(20) のように単にフィルターを適用するという用法（すなわち、*filter_functioning* フレームにもとづく用法）は、その表現が経路表現を伴わずとも、＜フィルターを適用する＞という意味で容認される。

このような経路表現の義務性は *filter_separation* フレームの表すイベントの特性の観点から説明することが可能である。このフレームの表すイベントは移動イベントと関連している。すなわち、対象がフィルターに対して移動し、その帰結として通過や除去といった結果が生じる。つまりこのフィルターのイベントは移動のイベントを内在しているのである。この時、フレーム要素はどの経路を通過したものであるかということによって決まってくる。そのため、このイベントのある側面を表すためにある特定のフレーム要素を言語化するには、そのフレーム要素を特徴づける経路表現が必須になってくるということである。経路表現の義務性はこのことに由来すると考えることができる。

次に (ii) の経路表現の脱落する場合について考える。(i) の議論においては経路表現の義務性とその説明を述べた。しかし COCA では (21) のような、経路表現の脱落した例が実際に観察された。

- (21) a. Brightmail, which filters spam for some 300 million user accounts worldwide, reports that in January 60 percent...
- b. Already, manta rays with six-foot wingspans are sailing into view, mouths open, filtering the eggs from the water.

(COCA)

上記の例では、理解される意味は＜除去する＞である。この意味の場合 *out* などの経路表現が必要であるはずであるが、そのような経路表現がないにも関わらず＜除去＞の意味を表す例として実際に使用されており、除去対象として理解される *spam* や *eggs* は目的語として現れている。そのためこれらの例は (i) から逸脱した例である。なぜこのような表現が観察されたのであろうか。

このような逸脱表現はフレームのデフォルト解釈を考慮することで説明が可能である。まずこの例で注目すべきは、このような経路表現の脱落は＜除去する＞の意味でのみ観察されるという点である。つまり特定の場合においてこの逸脱が生じているということである。デフォルト解釈というのは、フレームにおける諸側面のうち、標準的な解釈として理解される展開のことである。フィルターが用いられる場面について細かく考えると、フィルターは何らかのものを濾し取り、除去することを第一の機能として持っていると考えられる。通過し濾過された通過対象が生じるというのは別の対象が除去された結果として起

ることであり、その逆ではない。このように考えると、*filter_separation* フレームにおいては、除去するという側面がデフォルト解釈であると考えられることができる。実際、もう一方の<通過>の意味では、コーパスに経路表現の脱落した例が観察されなかっただけでなく、(22) に示すように、インフォーマントによる容認度判断でも容認されなかった³。

- (22) a. Sunlight filtered through the window.
b. *Sunlight filtered the window.

デフォルト解釈の性質上、その解釈が優先的に得られるということになるから、この解釈に支えられて、(21) のような除去の用法で *out* のような表現が脱落した例が許容されることが出来る。

加えて、<除去>の意味と他動詞表現の関係性もこの逸脱が許容される要因の一つであると考えられる。他動詞は典型的には<何かが何かに働きかける>ということを表すとされている。一方、*filter_separation* フレームの場合、除去対象は典型的に操作者によってその除去を目的に意図的に働きかけられる参与者である。つまり他動詞表現と<除去>の意味は表現内容において相性が良いと考えられ、それゆえ<除去>の意味が逸脱的な他動詞表現で表されることにつながっていると考えられるのである。

4.2. 自動詞用法の有無

ここでは (ii) 自動詞用法の有無について考察する。(i) と関連するが、*filter* の多くの意味において自動詞・他動詞の両方で現れる。しかしすべての意味において自他両方で使われるわけではない。自動詞用法は<通過する>の意味か<状態変化する>、また<ろ過の機能を果たす>の意味の時に観察され、<除去>の意味では自動詞用法は基本的には観察されなかった。また、インフォーマントによる内省の判断でも、下記の (23) 例は<除去>の意味では容認されなかった⁴。

- (23) a. Junk mail was filtered out.
b. *Junk mail filtered out.

この<除去>の意味において自動詞用法が容認されない理由は、*filter_separation* フレームにおけるフレーム要素の役割の自立性における非対称性からの説明が可能である。通過対象のフィルター通過の移動は自律的に通過していく。一方除去される対象の場合では、通過せず除去されるというのはひとりでに生じるものではなく、特定の特性を持ったフィルターを用いて人為的になされるものである。(i) の議論と同様、このような人為的な働きかけは使役性を強く含み、それゆえ<除去>は自動詞での表現になじまない⁵のである。

以上、*filter* における表層的な振る舞いについてフレーム意味論の観点から考察した。*filter* の表現上の振る舞いには意味的な動機付けがあり、*filter* の参加するフレームの特性を踏まえることで表現上の振る舞いに意味的な説明が与えられることを示した。また一見すると逸脱している例であっても、その逸脱には意味的な動機付けがあり、このこともフレームの観点から説明が可能であることを論じた。

5. 結論

本稿は英語名詞転換動詞 *filter* について、大規模英語コーパスにもとづく詳細な分析を行った。従来の道具名詞由来の転換動詞の意味の特徴づけである、その道具の規範的・典型的使用法というのは *filter* の意味を説明するには不十分であり、*filter* の参加するフレームの観点からより適切に説明されることを示した。*filter* は *filter_separation* と *filter_change-of-state* の2つのフレームに参加し、*filter* の持つ様々な意味はこれらのフレームにおいて異なるフレーム要素がプロファイルされることで生じてくるとともに、いくつかの意味はそれらからの拡張例として存在すると理解できる。本稿の分析をとおして、*filter* の意味構造におけるフレーム意味論に基づく分析の有効性を論じた。

謝辞

本稿の執筆にあたり、松本曜先生、岸本秀樹先生、田中真一先生に多くのご助言とコメントを賜った。また伊藤彰規氏およびDaniel Nover氏との議論を通して本議論が改善し発展したと同時に大いに刺激を受けた。ここに記して感謝申し上げたい。また本稿の内容は2015年4月に行われた京都大学言語学コロキウムでの研究発表(中嶋 2015)に基づいている。この発表においてオーディエンスより有益なコメントをいただいたことも記して感謝申し上げる。

註

¹ 次の例は通過と状態変化の両方を表しており、*filter_separation* フレームと *filter_change-of-state* フレームの両者に動機づけられているものであると考えられるかもしれない。これは、基本的には状態変化であり、構文も状態変化の用法のパターンを取っているが、同時にその状態変化の過程で何らかの通過と除去が生じている解釈が可能であるからである。

(i) It is our job to take life in, the funny and the sad, and filter it to its essence in some meaningful way, using language as our tool. (COCA)

² (19)-(21) は作例による。

³ (22) は作例による。

⁴ (23) は作例による。

- ⁵ ただし、COCA ではこれに対し例外であるような次の例が 1 件観察された。
(ii) And when we get the names, we don't know, but the names are beginning to filter out because they're missing.
<除去>におけるこの自動詞用法にみられる例もデフォルト解釈から説明が可能であろう。

参考文献

- 伊藤たかね・杉岡洋子. 2002. 『語の仕組みと語形成』 東京：研究社.
- 中寫浩貴. 2015. 『名詞転換動詞の記述に向けての事例研究』 2015年4月度京都大学言語学コロキウム内発表論文. 京都：京都大学.
- 由本陽子・影山太郎. 2012. 「名詞が動詞に変わるとき」 影山太郎 (編) 『日英対照名詞の意味と構文』. 東京：大修館書店.
- Aronoff, Mark. 1980. Contextuals. *Language* 56, 744–758.
- Baeskow, Heike. 2006. Reflections on noun-to-verb conversion. *Zeitschrift Für Sprachwissenschaft* 25(2), 205–237.
- Buck, Rosemary A. 1993. Affectedness and other semantic properties of English denominal locative verbs. *American Speech* 68, 139–160.
- Clark, Eve V., and Herbert H. Clark. 1979. When nouns surface as verbs. *Language* 55, 767–811.
- Dirven, René. 1988. A cognitive approach to conversion. In Werner Hülsen, and Rainer Schulze (eds.) *Understanding the Lexicon: Meaning, Sense, and World Knowledge in Lexical Semantics*, 329–343.
- _____. 1999. Conversion as a conceptual metonymy of event schemata. In Klaus-Uwe Panther, and Günter Radden (eds.) *Metonymy in Language and Thought*, 275–289. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Fabrizio, Claudia. 2013. The meaning of a noun converted into a verb: A semantic exploration on Italian. *Rivista di Linguistica* 25, 175–219.
- Farrell, Patrick. 2001. Functional shift as category underspecification. *English Language and Linguistics* 5, 109–130.
- Fillmore, Charles. 1977. Topics in lexical semantics. In Roger W. Cole (ed.) *Current Issues in Linguistic Theory*, 76–138. Bloomington, IN.: Indiana University Press.
- _____. 1982. Frame semantics. In The Linguistic Society of Korea (ed.) *Linguistics in the Morning Calm*, 111–137. Seoul: Hanshin Publishing Company.
- _____. 1985. Frames and the semantics of understanding. *Quaderni di Semantica* 6(2), 222–254.

- Fillmore, Charles, and Beryl Atkins. 1992. Toward a frame-based lexicon: The semantics of RISK and its neighbors. In Adrienne Lehrer, and Eva Feder Kittay (eds.) *Frames, Fields, and Contrasts: New Essays in Semantic and Lexical Organization*, 75–102. Hillsdale, NJ.: Lawrence Erlbaum Associates.
- Fillmore, Charles, and Collin Baker. 2010. A frames approach to semantic analysis. In Bernd Heine, and Heiko Narrog, (eds.) *The Oxford Handbook of Linguistic Analysis*, 719–816. Oxford: Oxford University Press.
- Hale, Ken and Samuel J. Keyser. 1992. The syntactic character of thematic structure. In Iggy M. Roca (ed.) *Thematic Structure: Its Role in Grammar*, 107–144. Berlin/New York: Foris Publications.
- Jespersen, Otto. 1942. *A Modern English Grammar on Historical Principles. Part VI: Morphology*. London: George and Allen.
- Jun, Jong Sup. 2009. Enriched composition in denominal location/locatum verbs in English. *Language and Linguistics* 44: 161–186.
- Kiparsky, Paul. 1997. Remarks on denominal verbs. In Alex Alsina, John Bresnan, and Peter Sells (eds.) *Complex Predicates*, 473–499. Stanford, CA.: CSLI Publications.
- Marchand, Hans. 1969. *The Categories and Types of Present-Day English Word Formation, Second, Completely Revised and Enlarged ed.*. Munich: C.H. Beck.
- Nagano, Akiko. 2008. *Conversion and Back Formation in English: Toward a Theory of Morpheme-Based Morphology*. Tokyo: Kaitakusha.
- Pennanen, Esko E. 1971. *Conversion and Zero-derivation in English, Acta Universitatis Tamperensis*. Vol. 40. Tampere: Acta Universitatis.
- Pustejovsky, James. 1995. *The Generative Lexicon*. Cambridge, MA.: MIT Press.
- Rimell, Laura D. 2012. *Nominal Roots as Event Predicates in English Denominal Conversion Verbs*. PhD Dissertation. New York University.
- Štekauer, Pavol. 1996. *A Theory of Conversion in English*. Frankfurt: Peter Lang.
- Štekauer, Pavol, Ana Díaz-Negrillo, and Salvador Valera. 2011. Meaning predictability and conversion. *Folia Linguistica* 45, 165–197.
- Sweet, Henry. 1892. *A New English grammar: Historical and Logical, Part 1: Introduction, Phonology, and Accidence*. Oxford: The Clarendon Press.
- Zandvoort, R. W. 1953. *A handbook of English Grammar*. London: Longmans.

コーパス

- Davies, Mark (2008-). *The Corpus of Contemporary American English (COCA): 520 million words, 1990-present*. Available online at <http://corpus.byu.edu/coca/>.